

「トヨタ自動車北海道 第4工場」など3件、 顕彰式を5年ぶりに通常開催

第41回冷凍空調設備の優良省エネルギー設備顕彰式が、3月21日、東京・千代田区のKKRホテル東京にて举行された。

3設備を顕彰、省エネセンター最優秀賞に「三菱重工冷熱」

今回の顕彰設備は改修設備部門3件で、他の部門は該当がなかった。最優秀賞にあたる(一財)省エネルギーセンター最優秀賞には、三菱重工冷熱(株)(東京都港区)が施工し、トヨタ自動車北海道(株)第4工場(北海道苫小牧市)に導入した「ヒートポンプを用いた焼入炉洗浄槽のCO₂排出量低減」が受賞した。三菱重工冷熱(株)とトヨタ自動車北海道(株)は、一昨年に続いて2度目の最優秀賞の受賞となった。

また、奨励賞には、(株)精研(大阪市中央区)が施工し、大塚製薬(株)徳島ワジキ工場W-2工場増築棟(徳島県那賀町)に導入した「往還温度差一定変流量制御によるポンプの搬送動力削減」、同じく奨励賞には、MDI(株)(川崎市川崎区)が施工し、味の素冷凍食品(株)九州工場(佐賀県佐賀市)に導入した「ヒートポンプによるボイラー給水加温」が受賞した。

この度受賞された設備は、川瀬貴晴千葉大学名誉教授を長とする特別委員会を2月20日に開催、慎重審議のうえ以上の3設備を選出した。

顕彰式は大森洋平・経済産業省製造産業局産業機械課課長補佐、田中隆羽同係長、小池穰治・(一財)省エネルギーセンター常務理事、齋藤潔・(公社)日本冷凍空調学会会長らが来賓として出席した。

定刻の午後3時30分、司会の白田良幸専務理事が開会を宣し、次いで國松孝一会長が「当会の優良省エネルギー設備顕彰事業は、皆様のご協力により今年で41回目を迎えることができた。」と述べ、「日



顕彰式の様子



式辞を述べる國松会長

設連では、会員の皆様が得意とする、特に省エネ対策が遅れている小規模ビルの省エネ化を促し、地球温暖化防止に寄与するとともに、会員へのビジネスチャンスの創出と業界の活性化を目指している。省エネは、エネルギー価格の高騰を受け、喫緊の課題であり、業界上げてお客様への設備改善提案による省エネルギー対策の強化を図ることによって、中長期的にみれば、お客様への経営改善、経営支援につながるものと考えている。また、使用中の機器からフロンが漏れいすることは、機器のシステム効率の低下を招き、電力消費の増加につながる。省エネルギー対策としても漏えい防止は重要な対策でもあ



講評を発表する川瀬委員長



受賞者代表あいさつする岡野・三菱重工冷熱社長



小池・省エネセンター常務（左）から顕彰状を授与される岡野・三菱重工冷熱社長（右）



祝辞を述べる齋藤会長

る。さらに、より一層の省エネルギーの推進と確実なフロン回収、排出削減など環境負荷の低減は、設備産業に携わるわが業界に課せられた重要な使命であると申せましょう。本日ここに顕彰を受けられた皆様は、このような環境を十分理解されとともに困難な条件を克服され、日頃蓄積された技術を駆使し、省エネルギーへの取り組みに尽力されたご功績は多とするものであり、そのご努力に深甚なる敬意を表するものである。」

と式辞を述べた。

次いで、川瀬貴晴審査委員長（千葉大学名誉教授）による審査結果の発表を行い、受賞3設備の省エネルギー技術の特徴について講評を行った。

次に顕彰に移り、はじめに（一財）省エネルギーセンター最優秀賞の「トヨタ自動車北海道（株）第4工場」に導入した「ヒートポンプを用いた焼入炉洗浄槽のCO₂排出量低減」の施工者、三菱重工冷熱（株）

の岡野伸泰取締役社長に顕彰状が、設備所有者のトヨタ自動車北海道（株）の吉田雄二専務取締役に感謝状が、同センターの小池稷治常務理事から贈られた。

また、奨励賞の施工者には顕彰状、設備を導入していただいた設備所有者には感謝状を國松孝一日設備連会長より記念品と一緒に贈られた。

「所有者の意志が高い技術力を生む」と受賞者代表あいさつ

賞状授与のあと、受賞者を代表して岡野伸泰・三菱重工冷熱（株）取締役社長から「今回の受賞は、所有者様の環境保全、カーボンニュートラルの取り組みへの強い推進の意志が、このような成果を生むことができたものと感謝している。今後も引き続きこのような提案を継続し、皆さまのお役に立てられるよう全社一丸となって取り組んでいきたい。また、



記念講演 登坂氏

業界の省エネ・環境保全の技術普及に積極的に貢献していきたい。」と受賞者代表者あいさつがあった。

「地球温暖化問題の解決が使命」と祝辞

最後に、来賓を代表して齋藤潔・(公社)日本冷凍空調学会会長より、はじめに受賞された皆様へのお祝いと積極的な省エネへの取り組みに敬意を述べた後、「当学会としてもこのような顕彰は参考にもなるし、基礎研究等に繋げていきたい。冷凍空調設備は、空調では、コロナ感染症、熱中症から人類を守る重要な技術となっている。コールドチェーンでは、安全・安心な食を皆さんに届ける技術でもある。最近では、高温サイドにも適用を広げており、脱酸素をクリアできる工場が実現できる技術、電力の需給バランスを保つ機能もある。素晴らしい技術でも普及していけば、エネルギー使用量は増えていく。間接的なCO₂の排出削減、冷媒の転換も大きな課題である。負の遺産を後世に残さないためにも努力をしていく。学会としても基礎研究の重要性を伝えてきているが、セミナーを通じて最先端の技術を紹介していく努力を続けている。そして、カーボンニュートラル2050委員会を立ち上げ、政策提言までしている。地球温暖化問題を解決していくことが我々に課された使命だと思っている。引き続き、日設連と良い関係の維持しながら、更に連携強化を図り、問題解決に取り組んでいきたい。」と祝辞があった。



懇親会で挨拶する是常副会長



乾杯の挨拶をする小池常務（省エネセンター）

3 省連携省エネ支援について説明

今回の記念講演は、「省エネルギー政策について」と題して、資源エネルギー庁省エネルギー課の登坂直樹総括係長が行った。コロナ禍が明け、5年ぶりに記念講演となった。

内容は、省エネ法の改正の内容について説明し、「非化石エネルギーへの転換や電気の需要の最適化を目指すもの」と説明した。また、省エネ支援策について、令和5年度補正予算の「省エネ支援パッケージ」について「省エネ設備への更新支援」、「省エネ診断」、経済産業省、国土交通省、環境省3省連携による「住宅の省エネ化」の3つについて説明した。特に3省連携については、「高効率給湯器の導入」、「賃貸集合住宅の省エネ化」、「断熱窓への改修」、「子育てエコホーム」の補助金について、それぞれ説明した。

和やかに記念パーティー

顕彰式、記念講演に引き続き、別室で記念パーティーが開かれた。パーティーの冒頭、是常副会長より「課題の多い業界ではあるが、機器メーカー、設備業者、保守サービス会社等関係者が一致団結して、乗り越えていきたい。」と挨拶し、小池穰治・（一財）省エネルギーセンター常務理事より「カーボニュートラル達成すべくギアを一段と上げていかなければならない。最も重要な柱となるのが、創意

工夫・技術開発を進め、情報発信をし、それを社会実装していくことだと思っている。今回受賞された設備は、それぞれ創意工夫された技術で、投資回収も早く社会実装されたものと思っている。この省エネ顕彰は、技術開発を促進し、情報発信を後押しするものである。」と挨拶し、その後、同氏の乾杯の発声により、記念パーティーが始まった。

同パーティーは、受賞者らが参加し、和やかに歓談、あちこちで情報交換をする姿が見られ、千種副会長の中締めで盛会裡に終了した。

第41回優良省エネルギー設備顕彰受賞者一覧

令和6年3月21日 （一社）日本冷凍空調設備工業連合会

No.	部 門	設備施工者	設備所有者〔設備建物名〕	テーマ
1	一般財団法人 省エネルギーセンター最優秀賞 〔改修設備部門〕	三菱重工冷熱株式会社 (東京都港区)	トヨタ自動車北海道株式会社 〔第4工場〕 (北海道苫小牧市)	ヒートポンプを用いた焼入炉洗浄槽のCO ₂ 排出量低減
2	一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会 奨励賞 〔改修設備部門〕	株式会社 精研 (大阪市中央区)	大塚製薬株式会社 〔徳島ワジキ工場W-2工場増築棟〕 (徳島県那賀町)	往還温度差一定変流量制御によるポンプの搬送動力削減
3	一般社団法人 日本冷凍空調設備工業連合会 奨励賞 〔改修設備部門〕	MDI 株式会社 (川崎市川崎区)	味の素冷凍食品株式会社 〔九州工場〕 (佐賀県佐賀市)	ヒートポンプによるボイラー給水加温